

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催にあたり
川口市産品の活用を求める意見書

平成27年12月22日に開かれた政府の関係閣僚会議において、2020年東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場建設案が決定された。

新国立競技場で行われる2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、日本の未来を切り拓く新たな時代の幕開けとなることと確信している。

先の1964年に開催した東京オリンピック競技大会は、日本が戦後の復興を成し遂げたことを世界に示した歴史的にも意味深い大会である。そして、東京オリンピック競技大会の象徴となった旧国立競技場の聖火台は、戦後復興のシンボルとなり多くの人々の記憶に刻まれている川口鋳物を代表するオリンピックレガシーである。50年経った今、聖火台は、宮城県石巻市に貸与され、石巻市総合運動公園において、「震災復興のシンボル」として火を灯し、その役割を果たしているところである。

当市においても、1964年の東京オリンピック競技大会に続いて、旧国立競技場の聖火台を製作した鋳物産業や緑化産業をはじめとする当市伝統のものづくり産業が活かされるよう望むものである。

以上のことから、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたり、当市の「鋳物」と「植木」を是非とも活用いただきたく以下、要望する。

記

- 1 新国立競技場及びオリンピック関連施設の建設、付帯施設の整備、また、インフラ整備にあたっては、当市の景観材鋳物製品、植木・花き及び植栽技術等を活用すること
 - 2 前回の東京オリンピック・パラリンピックと同様に、新国立競技場の聖火台については、川口鋳物の製品の発注を検討すること。また、新規製作が困難であれば、前回使用した日本の高度経済成長期におけるものづくり製品の象徴であり、東京オリンピック・パラリンピックのレガシーでもある川口鋳物で製作した聖火台を再活用すること
- 以上、地方自治法第99条の規定にもとづき意見書を提出する。

平成28年6月24日

川口市議会 議長

吉田英司

内閣総理大臣
文部科学大臣
東京オリンピック競技大会・東京
パラリンピック競技大会担当大臣 様
衆議院議長
参議院議長